

県立水戸南高等学校（通信制）自己評価表

目指す学校像	校是「風雪に耐えてこそ巨木の年輪ハ刻まれる」 常に明るくのびのびと学習を続け、高い理想と強い向上意欲に燃える豊かな心情と丈夫な身体とを兼ね備えた、心身ともにたくましい人間を育成する。			
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況	
<ul style="list-style-type: none"> 生徒生活体験発表県大会や修学旅行などの学校行事や生徒会主催行事は生徒の自主的な活動と全職員の協力により教育的効果を上げることが出来た。 敷地内禁煙等の基本的な学校での生活習慣の定着は、巡回指導などを実施し、未然防止が図れた。 職員間の共通理解や家庭（保護者）との連携などを一層図る必要がある。 	生徒一人一人の継続的な学習の習慣化	<ul style="list-style-type: none"> レポート提出率の向上と添削内容の充実 「学習状況表」や「通信制の手引き」のより有効な活用 	B	
	望ましい勤労観・職業観の育成	<ul style="list-style-type: none"> ホームルームにおける進路指導の充実 教育活動全般を通じたキャリア教育への取り組み 生徒の進路実現へのサポート 	B	
	基本的な生活習慣と規範意識の確立（学校生活の安全と安心）	<ul style="list-style-type: none"> 社会性と公共心の育成、規範意識の高揚 教職員の共通理解による生徒指導体制の充実、 安心・安全な学校生活を送る支援体制の確立 	C	
	豊かな心の育成	<ul style="list-style-type: none"> 精神的に学校生活を援助する体制、 ホームルームにおける道徳教育の充実 スクールカウンセラー、キャンパスエイドを活用した教育相談体制の充実 	B	
	保護者及び家庭や関係機関との連携	<ul style="list-style-type: none"> 若年生徒、中学校時不登校、全日制中途退学者等多様な生徒への個に応じた指導 社会的自立のための家庭等との連携 	B	
	学校行事への積極的な参加	<ul style="list-style-type: none"> 生徒中心の企画内容の検討 特別教育活動への自主的な参加 	A	
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題
国語	<ul style="list-style-type: none"> 日本語運用能力を高めることで社会性を身に付けさせる。 古典の鑑賞を通して世界観を広げさせる。 小説や評論の読解を通して思考力を高め、情操を豊かにする。 	正確な日本語を用い、文意が通ずる文章を作成できるように、スクーリングを通して指導する。	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の実態を踏まえて、レポートや試験について、さらに改善を加えていく。 スクーリングにおいては、生徒の理解が深まるように、説明方法を工夫する。
		教材の読解を深めるための語彙力を養うような、レポートのさらなる改善を図る。	B	
		作文や読書感想文などの創作を通して自分の内面を探り、自分自身と向かい合わせ、自己実現への契機となるよう、添削指導をする。	A	
		レポートにおいて定期的、継続的な漢字指導を行う。	A	
		常識的な国語の知識をレポートとスクーリングを通して身に付けさせる。	B	
地歴	<ul style="list-style-type: none"> 激しく変動する世界を正しく公平に理解させることに努める。 	スクーリング終了時に、指導内容を点検・改善し、次のスクーリングに生かす。	B	<ul style="list-style-type: none"> レポートの内容充実と精選を図る。 生徒の実態に合わせた指導法を検討する。
		生徒一人一人の能力・実態に合わせた指導を随時行う。	B	
		激しく変動する世界にあって、さまざまな情報源から、生きた世界の姿を正しく理解させるとともに、公平な立場で世界の諸問題を見つめられる教養を育てる。	B	
公民	<ul style="list-style-type: none"> 現代の社会をよく見つけ、正しく公平に理解させることに努める。 	スクーリング終了時に、指導内容を点検・改善し、次のスクーリングに生かす。	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒のレポート提出率を高めるにはどうすべきかを検討したい。
		生徒一人一人の能力・実態に合わせた指導を随時行う。	B	
		激しく変動する世界に対応するため、あらゆるメディアを利用して、現代社会の姿を正しく理解させると共に、グローバルな視野に立って、物事を公平な立場で世界の諸問題を見つめられる心と教養を育てる。	B	
数学	<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力を定着させ、分かる喜びをより多く実感できるようにする。 	基礎事項の理解に重点を置いた理解しやすいものとなるよう、レポートの更なる改善を図る。	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒のレポート提出率を高めるにはどうすべきかを検討したい。
		基礎事項の理解に重点を置いたレポート添削を行う。	B	
		スクーリングおよび補助資料をより充実させ、自学自習でレポート作成ができるようにする。	B	
		必要に応じて個別指導をする。	C	

※評価基準：A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：出来ていない

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題
理科	<ul style="list-style-type: none"> 理科の楽しさを実感させ興味・関心をもたせる。 基礎的な知識を定着させる。 自宅学習を充実させる。 	・実験や観察の機会をできるだけ増やし、実物や現象に接する時間を増やすように努める。	B	<ul style="list-style-type: none"> スクーリングでの実験や実習・観察などを通して、理科を楽しみながら学んでもらえるよう努める。 生徒個人に対応した添削指導やサポートを心がける。
		・演習実験の充実、生徒実験や実習についての工夫・改善に努める。	B	
		・視聴覚教材やプリントなどを利用して、生徒が理解しやすいように、また、興味を持ってスクーリングに臨めるように努める。	A	
		・理解が不十分な生徒のサポートの充実や工夫に努める。	B	
		・生徒一人一人に応じたレポート添削指導を充実させる。	B	
		・NHK高校講座の視聴を勧める。	A	
		・自学自習のためのレポートの工夫に努める。	B	
保健 体育	<ul style="list-style-type: none"> 運動の実践を通して、計画的に運動を楽しむ習慣を育て、生涯体育の基礎を養う。 健康や安全の理解を深めるとともに、健康を高める能力や態度を育てる。 	・スクーリング時における各種の運動の合理的な実践を通して、一人ひとりの身体能力や個性を尊重した指導を行い、生涯を通じて運動に親しめる能力や態度を養う。	B	<ul style="list-style-type: none"> 指導方法や活動の場の設定を工夫し、各種の運動に対する好感度を高め、生徒がスクーリングに積極的に取り組めるようにしたい。 学習意欲を喚起し、学習理解を高めるための資料を作成する。
		・レポート添削を中心とした学習においては、運動や健康・安全についての知識及び理解を深めさせ、生涯を通して自らの健康を高める能力や態度を養う。	B	
芸術	<ul style="list-style-type: none"> 芸術各科の基礎知識、用具等の扱いを習得させる。 創作の喜びや鑑賞の楽しみを実感し、生涯にわたって親しむことができる。 	・スクーリングは、各種道具の使い方などを説明し、実技指導を工夫する。	C	<ul style="list-style-type: none"> スクーリングとレポートの連携 レポート内容の改善と工夫 レポートとテストの関連度の強化
		・レポートは、内容を厳選し、個に応じた添削指導に努める。	B	
		・テストは、スクーリングやレポート内容が反映されるものとし、個に応じて支援する。	B	
英語	<ul style="list-style-type: none"> 音声指導を行い、使える英語を身に付けさせる。 レポート作成に参考になる指導をする。 	・単語や英文を声に出して読ませる。実生活にどれだけ英語が浸透しているかを認識させ、簡単な英語を使えるようにする。	C	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き音声指導の充実を努める。 レポート提出率の向上に努める。
		・スクーリングにおいて、レポートの内容について必ず指導する。	B	
家庭	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的、基本的な知識・技術を定着させる。 家庭生活の重要性を実感させる。 	・時代に応じたきめ細やかなレポート添削を行う。	B	<ul style="list-style-type: none"> レポートの内容を精選する。 添削指導を充実させる。 スクーリングを生徒の実態に合った内容になるよう工夫する。
		・生徒ひとりひとりの技術に応じた実技指導を実施する。	B	
		・生活設計を通して、男女を問わず生活者としての自立を目指す学習を充実する。	C	
		・実験・実習の体験を通して日常生活をよりよくしていこうとする意欲を高めるよう努める。	B	
商業	<ul style="list-style-type: none"> 継続した自学自習の定着を図り、基礎学力の向上に努める。 	・レポート内容を精選し、配分を工夫する。	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の実態に合わせたレポート作成や補助プリントを検討する。 資格取得の支援の向上。
		・スクーリングの内容および補助プリントを充実する。	A	
		・個に応じた添削指導に努める。	A	
		・資格取得やビジネススキルアップを支援する。	B	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題
情報	・ネットワーク、端末、コンテンツ等を利用できる様にする。	・基礎的・基本的な用語を学ぶ。	A	・スクーリング内容のさらなる充実。 ・レポートの提出率の向上に努める。
		・簡単パソコン操作ができるようにする。	B	
		・ネットワーク上のコミュニケーションにおける情報モラルに関して指導する。	B	
教務	・生徒一人一人が各々の目標を達成できるよう学校の運営に取り組む。 ・生徒が自分の個性に応じた学習計画を立て、前向きな姿勢で学習に取り組めるようにする。	・「通信制の手引き」の構成等を検討し、正確で分かり易い内容にする。	A	・他の分掌等との連携を密にし、効率的な学校運営に努める。 ・職員への連絡、情報提供のあり方について改善を図る。 ・職員の事務処理の効率化を図る。 ・生徒の単位取得の向上を図る。 ・内規について現実に即した見直しを図る。
		・時間割を工夫し、生徒が効率よくスクーリングに出席できるようにする。	B	
		・試験の方法を検討し、無理なく受験できる環境を整え、合格率の向上を目指す。	B	
		・学校行事の内容・日程等を再考し、生徒が積極的に参加できるようにする。	B	
		・生徒の希望が十分に反映された科目履修が実現できるような履修指導の方法を考案する。	B	
		・各種支援システムの使い勝手を改善するなどし、効率的な処理ができるよう電子化を進める。	B	
		・学習指導部と連携して、レポート提出率の向上を図る。	C	
学習指導	・基礎学力を定着させ、単位修得率を向上させるために自学自習の支援を図る。 ・生徒の進路目標の達成を図る。	・教具・教材などの学習環境の整備と充実に努める。	B	・南通信外部送付先の精選。 ・レポート送付用封筒の簡略化。 ・生徒の特性に合った進路情報の提供。 ・学習状況表入力時期の最適化。 ・無償審査書類の早期提出と書類記入の仕方の指導。
		・生徒に「南通信」の有効活用を促すとともに、内容の充実を図る。	B	
		・NHK高校講座の視聴を奨励し、自学自習の習慣化を図る。	B	
		・図書内容の充実と利用の促進を図る。	B	
		・担任を中心に個々の生徒の進路相談を充実させるために、進路関係の情報収集、提供に努める。	B	
生徒指導	・校内全面禁煙の徹底を図る。 ・公共マナーの向上と社会的規範の遵守を図る。 ・思いやりのある心の育成を図る。 ・本校の「いじめ防止基本方針」に基づき、いじめの防止に努め、実態把握およびいじめに対する措置を適切に行う。	・全学年の先生の協力を得て、スクーリングの巡回指導、校内放送等により、喫煙による指導を減らしていく。	A	・通信制では、HRの設定が少なく、生徒が全員出席するわけでもないので指導の徹底が難しいが、個別に指導するなど、可能な限り公共マナーの向上や社会的規範の向上に努めたい。
		・HR等を利用し、薬物の危険性、有害情報の提供、交通マナーなどを随時指導していく。	C	
		・暴力・暴言により他人が受ける心の痛みが理解できたり、自主性のある行動がとれるよう指導していく。	B	
		・多くの行事を通じて、豊かな人間性の育成を図る。	A	
		・生徒の自己有用感等を高め、生徒から相談しやすい関係を構築し未然防止に努める。 ・保護者から相談しやすい関係を構築するとともに、いじめの早期発見に努める。 ・いじめ発生の際には、被害者の心のケアや加害者への指導を適切に行い早期解消に努める。 ・保護者と密接に連絡を取るとともに、必要に応じて関係機関と連携して対応する。 ・情報モラルやいじめについての事例研究や校内研修などの教職員研修を適切に行う。	A	
保健	・心身の健康と自己管理能力の育成を図る。 ・スクールカウンセラー及び教育相談委員会との連携により、教育相談の有効活用を図る。	・スクーリング時のHRや「水戸南通信」を通して生徒の健康維持・安全衛生面についての意識高揚に努める。	B	・健康診断の受診率を上げる方策についてさらに検討していく。 ・健康診断日に実施している学校医による健康相談については、生徒達へのPRに努める。
		・健康診断をより多くの生徒に受診させることにより、健康管理の必要性について理解させる。	B	
		・特異な体質や精神面で支障のある生徒については、教職員の共通理解のもとに指導に当たる。	B	
		・緊急事態への対応の機能の充実に努める。	B	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題
		<ul style="list-style-type: none"> ・学校医やスクールカウンセラーとの連携により、生徒理解の向上を図る。 ・生徒の健全育成を図るため、薬物乱用等の防止に努める。 	B B	
渉外	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒募集のための広報活動を充実させる。 ・同窓会活動や定通教育振興会の活発化に努める 	<ul style="list-style-type: none"> ・入学案内パンフレット、ポスター等の内容をより充実させるために工夫・努力する。 ・市町村訪問を効果的に実施することによって来年度の生徒募集の広報活動を図る。 ・通信制同窓会の活動を充実させる。 ・定通教育振興会の運営の活発化に努める。 	B A B A	<ul style="list-style-type: none"> ・学校案内パンフレット・ポスターの充実 ・各機関への学校広報活動の充実
第1年次	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣の確立 ・学習の習慣化の定着 ・多様な生徒への指導の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・公共の場における高校生としてのあるべき行動様式が備わるよう指導することに努める。 ・各生徒の個性に対応した個別指導により、自覚を促しスクーリング出席並びにレポート提出率の向上を目指す。 ・新卒生徒で問題行動のある生徒、中学校不登校の生徒、全日制高校中途退学した生徒などの理解に努め、適切な対応を心がける。 	B C B	<ul style="list-style-type: none"> ・入学式のHRで指導を徹底することにより、校内における問題行動は未然に防ぐことができたが、レポートの提出率の向上にはあまりつながらなかった。
第2年次	<ul style="list-style-type: none"> ・学習習慣の定着による基礎学力の向上 ・生徒一人ひとりの自立を促す生活指導の充実 ・学習環境を整え、学習に集中できる教室秩序の確立 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況表の利用による個別指導を通して、各生徒自身の自覚を促し、スクーリング出席率、レポート提出率の向上を目指すと共に学習会など企画して学習支援を図る。 ・問題を抱えている生徒について、学年全員が情報を共有し、保健部・生徒指導部・教育相談委員会なども連携して生徒理解に努め、生徒理解に努めたいうえで、生徒の問題行動に対しては学年教員全員で対処する。 ・教室に馴染めない生徒の居場所作りを工夫する。 	B A A	<ul style="list-style-type: none"> ・各生徒に対応した個別指導により、学習意欲を高める。 ・3年卒業予定者に対しての学習支援を図る。
第3年次	<ul style="list-style-type: none"> ・機能的生徒理解の充実 ・学習のより一層の定着化 ・進路指導の実現 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題を抱えている生徒について学年全員が情報を共有し、保健部・生徒指導部・教育相談委員会などとも連携して生徒理解に努め、生徒の問題行動に対しては学年教員全員で対処する。 ・個別指導を通して生徒の学習意欲を促し、スクーリング出席率・レポート提出率の向上を目指す。 ・進路相談に努め、生徒の自己実現を支援する。 	B B B	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き進路指導を意識的し、生徒の進路選択の支援をする。 ・卒業を目標にしている生徒の単位修得のための履修指導、学習指導に留意する。
第4年次	<ul style="list-style-type: none"> ・目的達成のための指導の充実 ・学校行事への参加奨励 ・進路指導の充実 ・学校生活の安定化 	<ul style="list-style-type: none"> ・単位修得率をあげ、卒業生を一人でも多く出せるように努める。 ・各学校行事に積極的に参加するように働きかける。行事をとおして教職員や友人と適切に関わり、クラスでの親睦を深めるなど、校内生活において充実感を持たせ学校生活の安定化の一助とする。 ・進路指導の充実を図る。卒業見込みの生徒一人ひとりに対し、生徒の進路希望に合わせて適切な助言、資料や情報の提供に努め、生徒の自己実現を図る進路指導に努める。 ・ホームルームや巡回指導等をとおして、最上級学年としてふさわしい学校生活を送るように指導する。 	A B A A	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人一人にあった履修計画を実施し、卒業に向けた指導を実践していく。 ・再4年次生に対しては、新課程に対応した履修科目の精選に努める。

※評価基準：A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：出来ていない